



2012年四旬節メッセージ（教皇ベネディクト十六世）

「互いに愛と善行に励むように心がけましょう」（ヘブライ 10・24）
 ～思いやりを持ちましょう～



抜粋：シメオン後藤正史神父

「四旬節は、わたしたちがみことばと秘跡に助けられながら、個人として、また共同体として、自らの信仰の旅路を刷新するのにふさわしい季節です。その道のりは、復活祭の喜びを待ち望みながら、祈りと分かち合い、沈黙と断食をすることを特徴とします。

○《兄弟姉妹に対する責任》

「世界は病んでいます。この病の原因は、資源の取り尽くしや少数の人々による独占にあることはもちろんですが、それ以上に個人どうし民族どうしの兄弟愛の欠如のうちにあるのです」（パウロ六世、回勅『ポプロールム・プログレシオ』66）。

他者を思いやるとは、彼らの必要に気づくことです。ルカは、その例としてイエスの二つのたとえ話を記しています。①（よいサマリア人のたとえ話）祭司とレビ人は、追いはぎにあった人の存在に関心を示さず、「通り過ぎます」（ルカ 10・30-32）。②（金持ちとラザロのたとえ話）金持ちは門前にいる餓死しそうなラザロの貧しさを無視します（ルカ 16・19）。思いやりと愛に満ちたまなざしを兄弟姉妹に向けるのを阻んでいるのは、多くの場合、1) 物的な豊かさや満足感への執着であり、2) 自分の利益と自分の問題を他のすべてのものより優先する傾向です。苦しんでいる人々に「いつくしみを示す」ことができなくなっているではありません。自分の関心事や問

題に心がとらわれすぎて、貧しい人の叫びが聞こえなくなっているではありません。謙虚な心を持ち、苦しみを自ら体験することにより、わたしたちは思いやりと共感という意識を自らの内に目覚めさせることができます。「神に従う人は弱者の訴えを認める。神に逆らう者はそれを認めず、理解しない」（箴言 29・7）。

○《忠告しあう大切さ》

「互いに思いやりをもつ」ことは、他者の霊的幸せに配慮することでもあります。初期教会や真に信仰が成熟した共同体は、「永遠の救いに目を向け、兄弟間で忠告し合い」ます。キリストご自身も罪を犯している兄弟に忠告するよう、わたしたちに命じています（マタイ 18・15）。悪を前にして沈黙してはなりません。真理に逆らい、いつくしみの道に沿わない考え方や行動をしている兄弟姉妹を戒めずに、対人関係や単なる個人的な都合から世間一般の考え方に迎合しているキリスト者すべてをわたしは憂慮します。「万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、霊に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい」（ガラテヤ 6・1）。個人主義が蔓延する世界で、わたしたちがともに聖性に向けて旅するためには、

兄弟間で忠告し合うことの重要性を再発見することが不可欠です。

○《一つのからだ、共同体》主の弟子たち（信者）は、聖体を通して主と一致し、一つのからだの部分として互いに結びつく共同体の中に生きています。このことは、他者は自分の一部であり、他者のいのちと救いは、自分のいのちと救いにかかわっていることを意味します。わたしたちの罪と愛の行いは、社会的側面を持っています。教会は、たえず悔い改め、仲間の罪のゆるしを求めだけでなく、その中心にある徳と愛の模範において尽きることはない喜びを感じる共同体です。

○《わたしたちの召命、神の計画の実現》

この世でわたしたちに与えられる時間は、神の愛において善行を識別し、実行するための貴重な時です。わたしたちは皆、神の計画の実現のため、教会の善のため、そして自らの救いのために、霊的、物的な富を授かりました（ルカ 12・21、一テモテ 6・18）。特定の優れたキリスト者を、福者や聖人として認め、称賛するという教会の知恵は、彼らの徳に倣うよう促すためのものでもあります。聖パウロは「尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」（ローマ 12・10）と説いています。

心都 イスラエル

MM

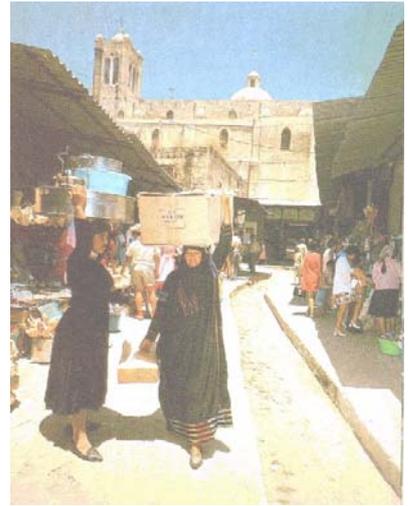
今年1月19日より1月26日の8日間、聖地イスラエルを旅してきました。そのうちの機中が2日半で、あますことなく訪ねまわるのは、旅なれぬ私にとって、ハードスケジュールで、時差ボケもあり、朝早く起きて団体行動での観光バス、現地のガイドさん付きとはいえども、どこをどの様に回ったのかと、聞かれてもハッキリと覚えていません。2000年前にイエス様がおられた場所に行き、同じ空気を吸いに行ったというのが、正直な感想です。

首都エルサレムは観光化されており、物売りで満ちたヴィア・ドロローサの人ごみの中で、現代のケデロンの谷(ダビデがかつて、息子に追われ涙と共に歩いた谷。イエス様が鎖で繋がれほふり場まで歩いた場所)を歩いて十字架を背負おわれたイエス様を見いだそうとするのは容易なことではありませんでした。また鶏鳴教会(ペテロがイエス様を知らない

と3度イエス様を否定した場所)、鞭打ちの教会、聖ヨセフの教会、ゲッセマネ教会など様々な聖書の箇所(遺跡場所)では、そこで静かな祈りの時間をとられることをお勧めします。そうでないと旅の疲れと遺跡巡りの為にただ観光地を廻ることが目的となり聖地訪問の本来の意味とかけ離れてくると思います。

むしろ個人的に印象に残った場所と言えば、イスラエルの大自然となだらかな丘と畑。また、年間降水量が200ミリしか降らない、人を寄せ付けない砂漠と荒野の風景、そこに住む羊飼い、ほんのわずかしかない草を食む山羊を追って旅をする親子の生活のありようでした。

瀬戸内の島で育った私としては一番、感動した場所は、ガリラヤ地方です。イエス様がそこに網をうちなさい、と言われて網が破れそうなぐらい大漁したティベリアの町。群衆が



おしよせてきて、船から岸にむかってイエス様が話された湖、そして2匹のさかなと5つのパンの奇跡の場所。水の上を歩かれて弟子たちを驚かされ、ペテロが私も歩いてみたいと沈みかけた湖。イエス様が悪霊を追い出し傷ついた人を癒された若草の風の吹くガリラヤを訪ねると、2000年前のイエス様の息吹がほうふつとしました。

またルカ4章に書いてある、イエス様が安息日に入られた会堂、イザヤ書を渡され、「今日、このみことばが、あなたがたが聞いた通り実現しました。」と、権威あるものの様に話され、聞き入っていた人たちを驚かせた場所。その建物のすぐ傍ではペテロの姑を癒された。その家は、かなりの邸宅でした。その姑の家の跡地

から、かなりの家元であることが推測されました。したがってペテロの強気、短気、指導性の資質なども彼の育った環境も理解できた気がしました。その付近にはなだらかなガリラヤ湖を見下ろせる場所があり、イエス様が木や石に腰掛け、弟子たちを諭された山上の垂訓の場所があつて、小さな記念碑が残されていました。

そのほか記憶に残った場所では半年前から入場が許され再開されたヨルダン川です。イエス様がヨハネによって洗礼され、鳩のような聖霊が降りて来て、「これは愛するわが子これを祝福する」と語られた場所に行き、もう一度、初心を忘れずに、という思いを込めて自分で頭に水を掛け、父と子と聖霊と、十字架を切り。水を口に含んでみると、ヨルダン川は石灰水の味がしました。

エルサレムにむかう旅とは何か？それはそこを訪れる者に様々な問いかけてくる聖霊の風であり、必要な問いと答えが、用意されている魂の聖地に違いないでしょう。

ぶどうの会について

SY

ぶどうの会は、受洗3年未満の信徒とその代父母を対象にした集まりです。教会行事がある時は除いて、毎日曜日朝のミサ後の午前11時から正午まで開かれています。

柳田神父やシスター荒谷のご指導を受けています。いつも、その日のミサで朗読された聖書に関して、お互い感じたことや疑問に思った事などを分かち合つて、最後に神父やシスターのご指導をいただいています。私は去年に受洗したばかりの、信徒としてはまだほんの「ひよっこ」ですので、聖書に関しても、教会についても、分からないことだらけです。いつも、聖書に関して浮かんだ疑問や謎を、神父様やシスターに臆面もなく聞いていま

す。私の質問は実にたわいのない、幼稚なものばかりですが、神父様やシスターはきちんと丁寧にお答え下さいます。

そんなぶどうの会は私にとってとても大切な会です。ぶどうの会に出席することで、聖書や教会に関する理解が深まり、それどころか、信仰が深まると言ってもいいと思います。

私が気になるのは、いつもぶどうの会の出席者が少ないということです。ぶどうの会は受洗間もない信徒にとって、またとない信仰を深めるチャンスだと思います。対象になる信徒の方は今後、是非ご参加をお願い申し上げます。また、代父母の方々もお忙しいこととは思いますが、「子供」を育てるといふ気持ちで、ご参加をお願い申し上げます。

ぶどうの会が今後ますます発展し、大きなそして良い会となりますように。



3~4月の行事予定

- 3/11 (日) 四旬節第3主日
東日本大震災一周年ミサ
四旬節黙想会
日曜学校授業
- 3/16 (金) 十字架の道行
(10時ミサ後)
愛宮ラサール座禅会
(地下聖堂 19:00)
- 3/18 (日) 四旬節第4主日
ヨセフ会主催 10分間の掃除
運営委員会
洗礼直前総まとめ講座
日曜学校卒業式・終了式
- 3/19 (月) 聖ヨセフ
- 3/21 (水) 聖時間 (地下聖堂
10:00)
- 3/22 (木) 祈りの集い
(地下聖堂 18:30)
- 3/23 (金) 十字架の道行
(10時ミサ後)
- 3/25 (日) 四旬節第5主日
高齢者の集い
学習会「第二バチカン公会議
の精神を学ぼう」
- 3/30 (金) 十字架の道行
(10時ミサ後)
- 3/31 (土) ゆるしの秘跡
(14:00~17:00)
- 4/1 (日) 受難の主日(枝の主日)
教会掃除
合同ブロック会
パイプオルガン定期演奏会
- 4/3 (水) 聖香油のミサ
- 4/4 (木) 聖木曜日・主の晩
餐タベミサ
- 4/5 (金) 聖金曜日・主の受
難の祭儀
マリア会総会
- 4/7 (土) 聖土曜日・復活の
聖なる徹夜際
- 4/8 (日) 復活の主日
- 4/15 (日) 復活節第2主日
日曜学校入学式・始業式
初聖体
ヨセフ会主催 10分間の掃除
新旧合同運営委員会
- 4/22 (日) 復活節第3主日
- 4/26 (木) 祈りの集い
(地下聖堂 18:30)

編集後記

先日「エンディングノート」という映画を見ました。娘姿ががん宣告を受けた父の姿を聖イグナチオ教会での葬儀にまで撮ったドキュメンタリーです。温かい家族の愛情が映し出され、観ていると最後には、まるでそのお父さんが自分の父のような錯覚に陥るほど。ぜひ一度ご覧ください。(ひ)

